

環境報告書 2015



中京化成工業株式会社

環境報告書 - 2015 -

中京化成工業(株)では、2003年3月にISO14001推進計画を作成し、環境問題への体制作りを開始しました。

環境マネジメントシステムを5月から仮運用し、翌2004年2月から本格運用、そして2004年6月18日に「本社・工場」を対象としてISO14001の認証を取得しました。

1999年12月に取得しておりますISO9001と合わせまして、

2015年度も品質と環境のマネジメントシステムの統合を目指して、品質目標と環境目標を可能な限り統合して設定するように努めました。また、2015年版改訂にも早期に対応しく予定です。

環境方針／環境目的・目標

環境方針

当社は、環境マネジメントシステムの最上位の「環境基本方針」に環境問題に取り組む決意と姿勢を表明すると同時に、より具体的に、かつISO14001規格に適合した「環境方針」にまとめて制定しております。

「環境方針」 平成16年2月制定 平成26年4月改訂

環境基本方針

- ①我社は自然と共生することに最大の関心を払う。
- ②我社は環境配慮型製品の開発を進める。

環境方針

1. 当社の各事業活動、製品及びサービスを踏まえた環境マネジメントシステムを構築し、環境保全に適合した活動を推進します。また、蓄積された潤滑理論をベースに自動車関連、グリース、工業用関連、離型・剥離用関連、洗浄用関連などの分野で顧客の環境負荷低減を支援します。
2. 変化する諸条件及び情報を反映し、環境マネジメントシステムとの活動実績の継続的改善、環境負荷の低減及び汚染の予防を図ります。
3. 環境法規、条例、規制や当社が合意したその他要求事項を遵守します。
4. 事業年度毎に環境目的及び目標の設定をし、運用します。
5. 全従業員に環境教育を実施すると共に、ビジネスパートナーに対しても理解を求め一致協力して環境管理を実施して行きます。
6. この方針は、文書化し広く一般に開示します。

2014. 4. 1

中京化成工業株式会社

代表取締役社長

廣野 拓

2015年度 環境目的・目標

「環境方針」をベースに、当社の管理できる活動、製品、サービスから特定された「著しい環境側面」、法的及びその他の要求事項、更には利害関係者の見解等を配慮して「環境目的」を設定しています。また、その「環境目的」の達成に向けて各年度に「環境目標」を決めて対応し、その施策の実現に取り組んでおります。

環境目的（全社）

- ①環境配慮型製品の開発と販売促進
- ②資源・エネルギー・廃棄物の削減
- ③法規制及び組織が同意するその他の要求事項の順守
- ④予防処置

部 門	品質・環境目標	
	内 容	目 標 値
営業 1 部	顧客における要望をくみ上げた環境配慮型製品を新規製品化する	年間売上 3,000 万円
営業 2 部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 〔 汚れ対策油・油煙対策油・臭気対策油・再生油・ CLフリー油・鉛フリー油・ボンデフリー油・他 〕	年間売上 6,500 万円
営業 3 部	顧客の要望する環境配慮型製品の開発・拡販	年間売上 2,350 万円
業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	0 件
	半製品の管理	上期：調査下期：運用
製造部	重油使用量削減	平成 26 年度対比 100% 以下
	オイル工場製造時の調整件数の削減	平成 26 年対比 50% 以下 (25 件以下)
技術研究所	研究開発 第 1 課	顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発 8 件 1,640 万円
	研究開発 第 2 課	顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発 9 件 1,550 万円
	研究開発 第 3 課	顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発 10 件 1,200 万円
	技術部	紙媒体による保管文書の電子化 (原料 SDS) 100%
品質保証部	検査－品質の向上	昨年度 5～10LOT 製造品 全て
	電気使用量の削減	2014 年度以下
総務部	受注及び入力ミスの削減	1 件以下
	総務の重要得意先リストの作成	年度内完成
	可燃ごみの減量	年間 360 件 (PDF 化)
全社	予防処置	6ヶ月に 1 件以上 年間 2 件以上

2015年度 環境目標・実績

各関係部門において基本3年後の達成を目指し「環境目的」を設定し、単年毎の通過点である「環境目標」の達成に向けて取り組みました。仔細は次頁の通り。

部 門		環境目的	取組 年数	目 標	実 績	評 価	
1. 増	営業1部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	②	年間売上3,000万円	3,988万円	\(^o^)/	
	営業2部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	⑥	年間売上6,500万円	6,570万円	(^-^)	
	営業3部	環境配慮型製品の開発・拡販	⑥	年間売上2,350万円	3,532万円	\(^o^)/	
	技術 研究 所	研究開発第1課	顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発	②	8件 1,640万円	6件 1,993万円	\(^o^)/
		研究開発第2課	顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発	②	9件 1,550万円	9件 747万円	m(>_)m
		研究開発第3課	顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発	②	10件 1200万円	12件 1,301万円	\(^o^)/
		技術部	紙媒体による保管文書の電子化（本年度は原料SDS）	①	100%	100%	(^-^)
	品質保証部	検査—品質の向上	①	昨年度製造 LOT 数 5~10 を対象	100%	(^-^)	
全社	予防処置	④	年間2件以上 [年間2件×10部門]	11件	m(>_)m		
2. 減	業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	⑩	0件	3件	m(>_)m	
		半製品の管理	①	上期：調査、下期：運用90%	51%	m(>_)m	
	製造部	重油使用量の維持	③	2014年度対比100%以下	104.0%	(^-^)	
		オイル工場製造時の調整件数の削減	①	2014年度対比50%以下 (29件以下)	39件	m(>_)m	
	品質保証部	電気使用量の削減	④	2014 年度実績以下	0.8%増	(^-^)	
	総務部	受注及び入力ミスの削減（重点得意先リストの作成）	①	年間1件以下	1件	(^-^)	
		可燃ごみの減量（既存文書のPDF化）	②	年間360件	400件	\(^o^)/	

評価の凡例

\(^o^)/ : 目標値を10%以上達成しました！
 (^-^): ほぼ目標値
 m(>_)m : 目標値の90%以下に終わりました

各部のコメント

テーマ	部門	達成率(目標対比)	コメント
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業1部	132.9%	年間目標は達成できましたが部内での片寄りが大きかった事が反省点です。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業2部	101.1%	2009年より環境配慮型製品の販売を目標として年々アイテムが増え、目標も高くなりました。本年度は前年度に登録された製品の伸び悩みがありながらも顧客の環境に対する取り組みが大きくなってきたことでなんとか目標を達成できました。
環境配慮型製品の開発・拡販	営業3部	150.3%	今年は一製品が中心でしたが、目標を達成することができました。次年度は水溶性離型剤の拡販に取り組んでいきます。
顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発	研究所1課	件数: 75.0% 金額: 121.5%	金額については目標を達成できましたが件数は未達となってしまいました。内示をいただくまでの長期化も影響しているため、より一層の開発スピードアップを心がけます。
顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発	研究所2課	件数: 100.0% 金額: 48.2%	年初め4ヶ月実績計上でできなかったことが大きく響き、思うように金額を伸ばせませんでした。〔修正目標 8件、780万円に対しての達成率は112.5%、95.8%〕
顧客の要望する環境配慮型製品の新規開発	研究所3課	件数: 120.0% 金額: 108.4%	本年度は環境配慮型製品を多く開発することができました。製品の水性化および持続性向上が急務となります。
紙媒体による保管文書の電子化 (本年度は原料SDS)	技術部	551/551 (件)	原材料SDSの電子化に取り組み、紙の使用量の削減と共にデータベース化に取り組み達成することができました。
検査一品質の向上	品質保証部	203/203 (件)	累計で203件の製品を調査して27件の見直しを実施しました。
予防処置	全社	11件/20件	11案件中6案件は複数の部門での共同案件となっています。内、5件が3部門以上からの共同案件となっております。

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
外注先要因によるクレームの防止	業務購買部	3件	クレーム案件としては外部委託先に外注依頼をするスパンが長いものが多いため、解りやすい仕様書の作成、見直しの必要性を感じました。
半製品の管理	業務購買部	下期：運用57%	調査から運用を通して、実施していく中で次第に関連部署との温度差が縮まってきたことを感じ根気よく行うことの重要性を感じました。
重油使用量の維持	製造部	96.1% (昨年50.6KL/今年52.6KL)	工場全体で年当初は計画しましたが、途中でオイル工場のボイラーのガス化により、内容が分かりづらくなりました。
オイル工場製造時の調整件数の削減	製造部	74.4% (昨年59件/今年39件)	今年度の実績は39件とオーバーしてしまいましたが、(昨年対比20件減)個人別に目標を揚げたことで各部門が今まで以上に気をつけるようになった
電気使用量の削減	品質保証部	99.2%	本年も電気使用量の削減に向けエアコンの設定温度やデマンドコントロール等の推進や啓蒙活動を行いました但最终的には未達となってしまいました。
受注及び入力ミスの削減 (重要得意先リストの作成)	総務部	1件(目標1件以下)	総務部として重要得意先リストの作成したことで営業サイドと意思伝達ができたと意味があったと考えられます。
可燃ごみの減量 (既存文書のPDF化)	総務部	111.1%	電子化とセキュリティの狭間での板挟みに意識が集中し、当初の目標である“可燃ごみの減量”としての確認方法を確立できませんでした。

中京化成工業株式会社
環境への各種取り組み



太陽光発電システム



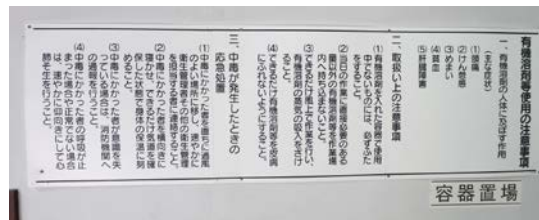
ガスボイラーへの更新
(大気汚染の軽減)



段差対策



有機溶剤への対応



緊急事態への対応

- ・漏洩テスト
- ・非常呼集(防災教育)





中京化成工業株式会社

CKK CHUKYO KASEI KOGYO CO., LTD.

ISO9001:2008 (JQA-QM3984)

ISO14001:2004 (JQA-EM4081)

〒448-0008

愛知県刈谷市今岡町西吹戸 10-1

TEL: (0566)36-3690 (代表)

FAX: (0566)36-6156

URL: <http://www.c-k-k.co.jp>

10-1, Nishifukido, Imaoka-cho

Kariya-City, Aichi-Pref., JAPAN

TEL: 0566-36-3690 (General Line)

FAX: 0566-36-6156